

医薬保健学総合研究科 保健学専攻  
【授与する学位】博士（保健学）

大学（大学院）の目的
<p>金沢大学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。</p> <p>博士課程は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。</p>

学類（研究科）の教育研究上の目的
<p>医薬保健学総合研究科は、医学、薬学及び保健学の教育、研究及び診療を通して、地域貢献、世界への情報発信並びに優秀な高度医療人、研究者及び専門的職業人を養成及び輩出することを目的とする。</p> <p>博士課程保健学専攻は、21世紀の保健学を先導する知の創成と新しい保健学の学問拠点形成を推進し、健全な保健、医療及び福祉の発展に寄与する人材を養成することを目的とする。</p> <p>博士後期課程保健学専攻は、看護科学、医療科学及びリハビリテーション科学の臨地及び学際的な教育研究を行い、保健学の発展と人類の健康と福祉の向上に寄与し、地域に貢献し、世界に情報を発信する指導的な研究者及び医療人を養成することを目的とする。</p>

ディプロマ・ポリシー（DP）	カリキュラム・ポリシー（CP）	アドミッション・ポリシー（AP）
<p><b>【修了認定・学位授与に関する基本的考え方（前文）】</b></p> <p>本学医薬保健学総合研究科保健学専攻は、高度専門医療人として研究を推進する人材を育成することが社会から期待されている。そうした人材を育成するために、保健学専攻では、所定の課程を修め、必要な単位を修得し、博士論文の審査及び試験に合格し、次のような目標を達成した者に、保健学（博士）の学位を授与する。</p>	<p><b>【教育課程編成に関する基本的考え方】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護科学、医療科学、リハビリテーション科学における学問の体系化の構築を行い、国際的にも活躍できる教育者・研究者および指導的な高度専門職業人の育成が目標である。</li> <li>・保健学の各領域が協力し、複雑化した保健医療福祉の重要課題に柔軟かつ多面的に取り組む能力を養う。</li> <li>・従来の保健学や技術分野に属さない新しい分野および境界分野の重要課題に対応でき、先端的な保健医療福祉に関する情報の発信と共有化の担い手となる人材の育成を目指す。</li> <li>・保健医療福祉の高度専門化に対する社会的ニーズに対応し、課題解決能力、研究能力のある指導的職業人の育成を目指す。</li> </ul> <p><b>【看護科学領域】</b></p> <p>各教育研究分野の専門性に応じた高度な専門知識を活用し、現代社会の健康課題を多角的に捉え、国内外の研究の動向をふまえながら、人々の健康に関する課題の探求とその解決に向け、理論構築や新たな介入方法の開発、知見の解明を意図した研究を遂行できる能力を養う。それにより、人々の健康増進と、看護の質の向上、看護学の発展に寄与し、国際的にも活躍できる教育者・研究者および指導的な高度専門職業人の育成を目指す。</p> <p><b>【医療科学領域】</b></p> <p>医療画像技術・放射線治療技術と生体情報計測・検査技術の発展を可能とする高度医療専門職、教育者、研究者を育成する。量子医療技術学講座では、医療画像技術及び放射線治療技術の発展のために研究成果を世界に向けて発信し、国際的に活躍できる人材を輩出する。病態検査学講座では、組織・細胞・生体分子を検査対象とする臨床検査技術、及び工医学手法を融合した生体情報計測・検査技術を通じて研究成果を発信して国際的に活躍できる教育者・研究者および指導的な高度専門職業人の育成を目指す。</p> <p><b>【リハビリテーション科学領域】</b></p> <p>特講、特別演習等の専門科目においては、高度な専門知識・技能を修得するとともに、課題解決への思考と実践を経験させる。また特別研究においては当該研究領域の国際的位置づけを検証し、国際雑誌への投稿執筆の経験を通してグローバルな視野と実践力を養う。さらに理学療法及び作業療法を融合した専門領域を牽引するリーダーの育成を目指す。</p>	<p><b>【入学者受入れに関する基本的考え方（前文）】</b></p> <p><b>【看護科学領域】</b></p> <p>博士前期課程で修得した看護職としての高度の専門性にに基づき、独自に研究課題を設定、計画の立案、看護研究の進展、成果の発表を通じて、看護学の発展に寄与する研究者の養成を目的とします。</p> <p><b>【医療科学領域】</b></p> <p>生体情報を扱う医療画像技術、放射線治療技術、組織・細胞・生体分子を検査対象とする臨床検査技術、及び工医学手法を融合した生体情報計測・検査技術を対象とし、「医療科学」の更なる発展を指導できる人の育成を目指しています。</p> <p><b>【リハビリテーション科学領域】</b></p> <p>リハビリテーションの発展に先駆的に寄与したいと願う人材を求めています。</p>
<p><b>【学生が身に付けるべき資質・能力】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健学領域において先端的な研究開発能力及び高度先端医療技術を有する医療人、研究者・教育者として認められ、生命の尊厳と保健医療に対する倫理観と責任感にあふれ、種々の医療分野の専門職と連携し、高度の医療技術を駆使したチーム医療を指導することができる。</li> <li>・専門分野における知識、技能に優れ、特別研究により必要な研究指導を受けた上、新たな知見を見いだすことができる。</li> </ul>	<p><b>【教育内容・教育方法（教育課程実施）に関する基本的考え方】</b></p> <p>以下の領域における専門分野の科目と特別研究により教育課程を実施する。</p> <p><b>【看護科学領域】</b></p> <p>特講、特講演習では、各教育研究分野の専門性に応じた高度な専門知識を活用し、現代社会の健康課題を多角的に捉え、国内外の研究の動向をふまえながら、グローバルな視点で人々の健康増進と、看護学の発展に寄与できる研究課題を探求させる。特別研究では、理論構築や新たな介入方法の開発、知見の解明を意図した課題を設定し、一連の研究過程を通して博士論文の作成を課し、国際社会に発信させる。</p> <p><b>【医療科学領域】</b></p> <p>医療科学に関する各研究分野の特講、特講演習、特別研究により学術論文の作成方法を指導する。量子医療技術学講座では、研究指導を通じて、新たな視点、更なる改良点を発見させ、新たな先端医療技術等の構築開発に繋がる教育指導を行う。病態検査学講座では、課題研究指導を通じてマクロとミクロの複眼的視点から新たな臨床検査学の基盤構築に寄与する研究教育指導を行う。</p> <p><b>【リハビリテーション科学領域】</b></p> <p>特講、特別演習、特別研究は主にゼミ形式とし、研究課題の経過報告・質疑及び文献抄読等を通して研究課題を推敲し国際的視野を広げる。また他の研究領域との協業やディスカッション等を通して、研究課題の広がりの可能性ならびに研究の社会的な位置づけを検証し、研究者としてグローバルな思考・視野を広める。</p>	<p><b>【求める人材】</b></p> <p><b>【看護科学領域】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護系大学の教員を目指す人。</li> <li>・病院などで指導的立場になることを目指す人。</li> <li>・看護学の探求を目指す人。</li> </ul> <p><b>【医療科学領域】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国民の医療・健康・福祉のため、「医療科学」の学問体系を更に発展させることができる意欲あふれた人。</li> <li>・独創的な研究を遂行できる高度医療専門職及び教育者・研究者としてこの分野のリーダーとなる素養を有する人。</li> <li>・医療技術者の視点で、学際的研究にも積極的に取組み、先端技術の新たな理論の構築並びに医療応用の研究を推進できる人。</li> </ul> <p><b>【リハビリテーション科学領域】</b></p> <p>神経・筋・関節の微細構造と機能の解析そして病態と回復の根拠の解析。中枢神経あるいは高次脳機能の障害の解析ならびに回復促進技術の開発と効果の根拠の検証。環境に適応して生活の自立を進める技術と自立の阻害を予防する方法の開発。これら課題の統計学的探求と検定。以上の研究をともに推進するなかで、発見し道を開いていく、意欲ある人の応募を期待しています。</p>
	<p><b>【学修成果の評価】</b></p> <p>(1) 授業科目に対して成績評価の基準及び方法を明示し、それに基づいて、学修成果を評価する。</p> <p>(2) 博士論文に対して審査基準と審査方法を明示し、それに基づき研究成果の審査及び最終試験を行い、評価する。</p>	<p><b>【選抜の基本方針】</b></p>
		<p><b>【入学までに身に付けて欲しい教科・科目等】</b></p>